

## 総務局への質問

「事業評価」に関して、担当する総務局：しごと改革室に質問をしました。(以下、質問内容抜粋)



「事業評価」1本に絞り質問をしました▶

**Q** 横浜市の総事業数は?その内、しごと改革室(以下改革室と呼ぶ)が管轄する範囲は?

**A** 本市全体では3,010事業。その内、改革室が取りまとめるのは一般会計分の2,451事業。特別会計+企業会計分559事業は企業局で取りまとめています(改革室長 答弁)

**Q** しごと改革室の職員数は?

**A** 係長1名と職員1名の合計2名(改革室長 答弁)

**Q** 2,451事業を2名でチェックするのは、人員不足ではないか?

**A** 今の人員体制で、出来ることを最大限行うのが、私の立場です(改革室長 答弁)

**Q** 2,451事業の評価結果は?

**A** 事業拡充が510事業(21%)、現状維持が1,844事業(75%)、縮小が67事業(3%)、休止・廃止が30事業(1%) (改革室長 答弁)

**Q** 評価の視点が、現場まかせで定性的すぎます。これを点数化するなどして定量化し、主観的評価から客観的評価に変え、評価のブレが出ないようにするべきであるが、いかがか?

**A** 現在の方法は、所管課自らが点検し、自ら課題に向き合い、改善していくという趣旨です。事業特性上、定量化が難しい事業もありますが、できる限り定量的な指標とするよう各区局に依頼して参ります(総務局長 答弁)

**Q** 「事業見直し調書」を公開し、評価過程のブラックボックス化を解消すべきであるが、いかがか?

**A** 「事業見直し調書」は、局予算原案と同時期に総務局に提出し、市の予算編成過程での調整や調書の内容精査等によって、事業見直しの内容も変動します。予算案の公表に合わせて、確定した「事業見直し一覧」を公表しています(総務局長 答弁)

**Q** 今回の回答だと、評価過程を公開するのかわからない。もう一度同じ質問をします!!

**A** 現在の方法で今後も当面進めていきたいと考えていますが、時代や状況に応じて新しいやり方に取り組むことも大事だと思いますので、今後検討していく課題であると認識しています(総務局長 答弁)

## 答弁で浮かび上がった課題

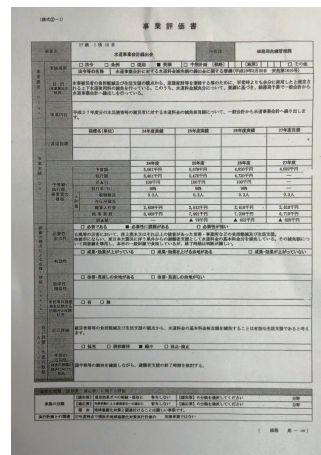
- 1 2,451事業をわずか「2名」の体制でチェックしている。
- 2 見直し事業数は、わずか4%である。
- 3 事業評価が主観的・定性的であり、現場任せである。
- 4 「事業見直し調書」がフォーマット化されていない(→当然公開もされていない)
- 5 事業評価過程がブラックボックス化し、議会でもチェックできない。

## 所見

現在の事業評価は客観性に欠く評価手法となっており、受験生が自分の答えを自分で採点するのと同じで、お手盛り感がぬぐえません。その答えをわずか2名でチェックする体制も含めて、事業評価手法の改善が求められます。しかし、局長の答弁からは、改善意欲は感じられませんでした。

又、大阪市や小牧市などで取組んでいる事業ユニット化による、「経営分析」の視点を入れた事業評価手法も提案しました。加えて、ここ10年程行われなくなった定期的な事業の一斉棚卸し(大掃除)も、必要であると主張しています。

私は「予算・決算の仕組みの改革」が政治改革・行政改革・財政改革の本質だと考えています。今回はほんの少しの前進ですが、改革を諦めずに、同様の主張を繰り返して参ります!



◀すべての事業評価書(PDF)がHP上で公開されています。改善課題は、  
①検索しやすい場所への公開  
②編集・分析しやすいデータの公開です。

今回のレポートはいかがだったでしょうか?皆様のご意見をお待ちしています。

<送付先>大岩事務所 FAX:045-442-8002

名前

TEL

住所